

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2023～2023
課題番号：23H05113
研究課題名 医療的ケア児の在籍する小学校の通常の学級における支援モデルの構築

研究代表者

田中 亮 (TANAKA, Ryo)

長野県塩尻市立桔梗小学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 430,000 円

研究成果の概要：小学校の通常の学級における小児慢性疾患等により医療的ケアを必要とする子どもの支援体制の構築は、多職種連携・協働が基盤となり成立するものであり、特に、学校看護師がその役割を大きく果たすことが考えられた。それとともに、医療的ケア児を含めたすべての子どもの健康状態を看護と教育の両側面から総合的かつ綿密に把握や実行することが専門性として求められており、これは、切れ目のない連続性をもった「トータル・ケア」の視点からの支援が、支援体制構築の上で、非常に重要であることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校通常の学級において看護師免許を有する学校職員の専門性が明らかとなり、それに伴い、医療的ケアに対応する支援体制の構築に向けたプロセスの一端が開発された。これにより、本研究での成果を基盤として、今後は、小学校における医療的ケアに対応できる専門性の高い具体的な支援法や教員研修の充実の提案が可能となることが期待できる。

研究分野：特別支援教育

キーワード：医療的ケア 病弱教育 通常の学級

1. 研究の目的

本研究は、小学校の通常の学級における小児慢性疾患等により医療的ケアを必要とする子どもの支援体制構築に向けたプロセスを明らかにし、病弱教育推進のための視座を明らかにすることを目的に行う。地域の小学校に多くの慢性疾患等の病気の子どもが多く在籍するようになった現在、支援体制の構築は必須となっている。そのため、医療的ケア児の支援のために行われている学校内・外の多職種連携・協働、病弱教育や医療的ケアに関する教職員研修、令和3年度には平成27年度のおよそ5倍の1,886人に配置数が増加している学校看護師の専門性を取り上げ、その実態と傾向、および、成果と課題について調査・検討する本研究の必要性は明確である。

本研究が完成した際には、1) 医療的ケアに対応する支援体制の構築に向けたプロセスを明らかにすることで、組織的な対応のモデル化が可能となる 2) 小学校における医療的ケアに対応できる専門性の高い具体的な支援法や教員研修の充実の提案が可能となる等の成果が期待される。

2. 研究成果

近年、いわゆる医療的ケアを必要としながら、小学校等の通常の学級で学ぶ児童生徒が増えてきている。しかし、多くの学校では支援体制の構築は未整備のままの現状にある。

そこで、まずは学校看護師の配置に関する法制度等の整備と歴史的経緯について整理した。

学校看護師の配置の始まりは、1998年に当時の厚生省と文部省の連携により学校看護師配置モデル事業にさかのぼる。2004年10月には、厚生労働省医政局長通知「盲・聾・養護学校におけるたんの吸引等の取扱いについて」により、教員による医療的ケアを「やむを得ない」とする実質的違法性阻却の考え方が示され、その条件のひとつとして、学校看護師の常駐が挙げられた。2019年3月には「学校における医療的ケアの今後の対応について（通知）」が発出され、教育委員会等においては、看護師の十分な確保と医療的ケア児の状態に応じた適切な配置、継続して安定的に勤務できる体制の整備等が医療的ケアの基本的な考えとして示された。また、2021年9月には、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、その中には、医療的ケア児とその家族への支援の一つとして学校看護師の配置が挙げられた。このような経緯を経て、「令和3年度学校における医療的ケアに関する実態調査結果（概要）」によると、特別支援学校に配置された学校看護師は、2008年度の707名から2021年度には2,754人に増加し、幼稚園、小・中・高等学校に配置された学校看護師は平成27年度の350人から令和3年度には1886人に増加した。

このような中、通常の学級における学校看護師の配置の歴史的経緯を振り返ると、そこにはインクルーシブ教育システム・共生社会を目指す中での医療的ケア児の学びの場の広がりに関係していることが考えられた。

それを踏まえ、特別支援学校並びに小学校を対象として、現状の成果と課題について、実地調査を行い、その傾向を分析した。その結果、学校看護師は、医療的ケアや健康管理に加え、教室移動、学習準備、給食、清掃などの学校生活全般の教育的支援も職務としており、多職種連携・協働や保護者支援を行っている実態があった。つまり、学校看護師は、医療的ケアと教育的支援の両面から複合的な支援を行っており、独自の高度な専門性が必要とされていることが推察された。また、大多数の学校看護師が非正規雇用の勤務形態であり、児童の欠席や長期休業等により、勤務が変動的になり、収入や福利厚生不安定さも課題であった。今後は、学校看護師が望ましいケアを提供できるように、研修や相談の場を設定するとともに、学校全体で学校看護師へのサポート体制を構築する必要があると考えられた。

さらに、小学校勤務の看護師免許を有する学校職員が担う役割と専門性について、学校看護師・養護教諭・教諭に対するインタビュー調査を行った。その結果、看護師免許を有する学校職員は、医療的ケアに関する高度な知識や技術を有するとともに、その職種に合わせて役割や専門性が派生・拡大してきており、具体的には、医療機関や保護者との円滑な連携、丁寧な観察・判断、体調変化の気付きなどを担っている現状が示された。また、職種ごとの特徴として、学校看護師は医療的ケアの対応を中心としつつ、教育的支援を併せて行っていたり、養護教諭は健康管理や健康教育に関する専門性向上につながっていたりした。教諭については、日常的な教科指導や生活指導に看護の視点をもって児童・保護者とかかわる様子があった。このような調査・研究から、小学校の通常の学級における小児慢性疾患等により医療的ケアを必要とする子どもの支援体制の構築は、多職種連携・協働が基盤となり成立するものであり、特に、学校看護師がその役割を大きく果たすことが考えられた。それとともに、医療的ケア児を含めたすべての子どもの健康状態を看護と教育の両側面から総合的かつ綿密に把握や実行することが専門性として求められており、これは、切れ目のない連続性をもった「トータル・ケア」の視点からの支援が、支援体制構築の上で、非常に重要であることが示された。

これらの研究の結果を通して、総合的に検討すると、小学校の通常の学級における小児慢性疾患等により医療的ケアを必要とする子どもの支援体制の構築は、多職種連携・協働が基盤となり

成立するものであり、特に、学校看護師がその役割を大きく果たすことが考えられた。それとともに、医療的ケア児を含めたすべての子どもの健康状態を看護と教育の両側面から総合的かつ綿密に把握や実行することが専門性として求められており、これは、切れ目のない連続性をもった「トータル・ケア」の視点からの支援が、支援体制構築の上で、非常に重要であることが示された。それに伴い、多職種連携・協働を基盤とした学校看護師を中心としたトータル・ケアのシステム構築が、これからも増え続けることが想定される通常の学級における医療的ケアを必要とする児童生徒に対応するための支援体制構築のプロセスの開発の道筋が示されたと言えよう。これにより、本研究での成果を基盤として、今後は、小学校における医療的ケアに対応できる専門性の高い具体的な支援法や教員研修の充実の提案が可能となることが期待される。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中亮	4. 巻 37
2. 論文標題 小学校の担任が日常的に行う「さりげない支援」や指導の工夫	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊学校教育相談	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中亮	4. 巻 47
2. 論文標題 小学校勤務の看護師免許を有する学校職員が担う役割と専門性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 374-379
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 亮	4. 巻 5
2. 論文標題 学校看護師の配置に関する動向と通常の学級における支援の実際	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育支援協働学研究	6. 最初と最後の頁 114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 亮、奥住 秀之、大井 雄平	4. 巻 6
2. 論文標題 小学校の通常の学級における小児慢性特定疾患児童にかかわる特別支援教育支援員配置の成果と課題：専門性としての復学支援と教育相談的役割を見据え	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育研究実践報告誌	6. 最初と最後の頁 51～57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002405	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 順之介、田中 亮、奥住 秀之、大井 雄平	4. 巻 6
2. 論文標題 病弱教育における外国語活動・外国語科の指導：障害に応じた指導上の工夫に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育実践報告誌	6. 最初と最後の頁 41～50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18894/00002404	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口 明子、別府 哲、田中 亮、里中 広美、奥住 秀之	4. 巻 65
2. 論文標題 通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもたちへの支援	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教育心理学会総会発表論文集	6. 最初と最後の頁 36～37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20587/pamjaep.65.0_36	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 谷口明子、別府哲、田中亮、里中広美、奥住秀之
2. 発表標題 通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもたちへの支援—病弱児と自閉スペクトラム症児への支援に焦点をあてて
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中亮、奥住秀之
2. 発表標題 小学校における病弱教育に関する教職員の資質能力の向上
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------